

---

---

2016年度 第1四半期

# 決算説明資料

---

---



2016年 8月10日

## 2016年度 第1四半期 連結業績



(単位：億円)

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比増減 (率)	
売上高	1,543	<b>1,529</b>	▲ 13	( 99.1 %)
営業利益	77	<b>87</b>	+10	(112.6 %)
(営業外損益)	6	<b>▲2</b>	▲8	( - )
経常利益	83	<b>84</b>	+2	(102.0 %)
(特別損益)	27	<b>5</b>	▲22	( 18.9 %)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	76	<b>53</b>	▲23	( 69.8 %)
自己資本	2,323	<b>2,344</b>	+21	(100.9 %)
総資産	5,595	<b>5,558</b>	▲37	( 99.3 %)
経常利益率	5.4%	<b>5.5 %</b>		
R O E	3.3%	<b>2.3 %</b>		
E P S	38.98円	<b>27.27円</b>		
自己資本比率	41.5%	<b>42.2 %</b>		
ネットD/Eレシオ	0.58	<b>0.55</b>		

# 2016年度 第1四半期 事業セグメント別売上高・経常利益



(単位：億円)

		2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高・利益増減要因
産業ガス関連	売上高	471	<b>455</b>	96.7 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●粗鋼生産の回復に伴い、高炉向けオンサイトが緩やかに持ち直し</li> <li>●顧客操業度に濃淡あるも、新規獲得などにより、ガス供給は総じて順調</li> <li>●燃料調整の緩和により電力コスト低下</li> </ul>
	経常利益	31	<b>37</b>	119.9 %	
ケミカル関連	売上高	218	<b>166</b>	76.1 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コークス炉ガスの価格ならびに粗ベンゼンの販売価格が低下</li> <li>●タール蒸留事業は市況悪化続き、ニードルコークス需要減で厳しい状況</li> <li>●川崎化成工業は、市況悪化に伴う汎用化学品の販売価格低下</li> </ul>
	経常利益	2	<b>▲ 7</b>	—	
医療関連	売上高	274	<b>257</b>	93.9 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療用酸素が新規病院獲得などにより、前年並みの数量を確保</li> <li>●在宅医療はレンタル数増加、医療機器は適用拡大のNOが好調</li> <li>●医療サービスは、受託滅菌が伸長するも、SPDは販売減少</li> </ul>
	経常利益	11	<b>11</b>	100.9 %	
エネルギー関連	売上高	103	<b>91</b>	87.7 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原油価格下落に伴い、LPガスの販売単価低下</li> <li>●LPガスは燃転や省エネ機器拡販、電子マネーによる新サービスで数量増</li> </ul>
	経常利益	6	<b>7</b>	104.8 %	
農業・食品関連	売上高	200	<b>268</b>	134.0 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●飲料事業は、新規受託増加などにより堅調</li> <li>●農産・加工事業は、青果販売の数量・価格とも堅調</li> <li>●九州屋、高谷商店、AW農園の連結効果</li> </ul>
	経常利益	8	<b>11</b>	134.5 %	
その他	売上高	276	<b>292</b>	105.7 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●塩事業は、業務用一般塩の販売が堅調</li> <li>●マグネシア事業は、海外向け高級電磁鋼板用マグネシア販売減少</li> <li>●物流事業は、食品物流中心に荷扱い量増加、燃料コスト減少で順調</li> </ul>
	経常利益	21	<b>22</b>	104.0 %	
(調整額)	経常利益	3	<b>4</b>	125.5 %	—
合計	売上高	1,543	<b>1,529</b>	99.1 %	—
	経常利益	83	<b>84</b>	102.0 %	

# 2016年度 第1四半期 事業セグメント別業績内訳（1）

## <産業ガス関連セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
ガス	299	<b>282</b>	94 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高炉オンサイトが数量回復なるも、顧客負担分の電気代下落により売上減</li> <li>●エアセパガス全体の数量増加、半導体向けバルクガス堅調</li> <li>●炭酸ガスが需要期に入り需給タイト</li> </ul>
機器・工事	78	<b>80</b>	102 %	●ガス供給設備工事が増加
情報電子材料	93	<b>93</b>	99 %	●スマートフォン関連顧客が地震影響で停滞
計	471	<b>455</b>	97 %	—

## <ケミカル関連セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
コールケミカル	156	<b>110</b>	71 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガス精製は、コークス炉ガス価格が低下、販売数量減少</li> <li>●粗ベンゼンが原油価格下落等により販売価格が低下</li> </ul>
ファインケミカル	19	<b>22</b>	114 %	●セグメント移管に伴う売上高増加
川崎化成工業	42	<b>33</b>	79 %	●市況悪化に伴う汎用化学品の販売価格低下、キノ系製品の販売減少
計	218	<b>166</b>	76 %	—
シーケム(持分益)	▲3.9	▲ <b>7.7</b>	-	●原油価格下落に伴う市況悪化、ニードルコークス需要減少

## <医療関連セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
医療ガス	23	<b>22</b>	99 %	●医療用酸素は、新規病院獲得などにより前年並み数量確保
設備	47	<b>41</b>	87 %	●大型病院をターゲットに戦略的営業推進するも、前年度の受注残が少なく減収
医療サービス	111	<b>100</b>	91 %	●受託滅菌が伸長するも、SPDが販売減少
医療機器	8	<b>10</b>	130 %	●一酸化窒素吸入療法が、症例適用の拡大により好調
在宅医療	23	<b>23</b>	103 %	●在宅酸素濃縮器のレンタル数増加
その他	63	<b>60</b>	96 %	●償還価格改定により、西村器械、半田の売上高減少 ●ミサワ医科工業 新規連結
計	274	<b>257</b>	94 %	—

## <エネルギー関連セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
LPガス	95	<b>85</b>	89 %	●LPガス、灯油とも原油価格下落で販売単価が低下
天然ガス関連ほか	9	<b>7</b>	72 %	●LNGの販売単価低下ならびにLNGタンクコンテナ販売減少
計	103	<b>91</b>	88 %	—

## <農業・食品関連セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
食 品 関 連	40	<b>39</b>	98 %	●業務用の生ハム、ソーセージが、価格競争激化で苦戦
農 業 関 連	160	<b>229</b>	143 %	●飲料事業は、新規顧客開拓による拡販で受託増加 ●農産・加工事業は、青果販売の数量・価格が堅調 ●九州屋、高谷商店、AW農園 連結効果
計	200	<b>268</b>	134 %	—

## <その他セグメント>

（単位：億円）

	2015.1Q	2016.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
日 本 海 水	54	<b>60</b>	111 %	●一般塩の販売数量が増加 ●赤穂工場の発電が本格稼働
タ テ ホ 化 学	25	<b>21</b>	83 %	●海外向け高級電磁鋼板用マグネシア販売減少
海 水	79	<b>81</b>	102 %	—
物 流	94	<b>103</b>	109 %	●一般荷扱い量増加、食品物流・医療環境物流の新規受託増加
そ の 他	103	<b>109</b>	106 %	●エアゾールが人体用・自動車用・家庭用品向け販売増加 ●金属表面処理が、自動車部品を中心に受託増加
計	276	<b>292</b>	106 %	—

**本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。**

**そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。**